

当社医療廃棄物処理装置「国際モダンホスピタルショー2001」にて大好評

エネルギー応用研究所 計画グループ Mプロジェクトチーム

当社開発の医療廃棄物処理装置を7月11日（水）から東京ビッグサイトで開催された「国際モダンホスピタルショー2001」に出展した。本展示会は、医療設備関連では国内最大規模であり、3日間で55,300人の来場者があった。昨年に引き続き出展した当社ブースでは、昨年の3倍以上の来場者が訪れ、当社装置に対する関心の高さがうかがえた。

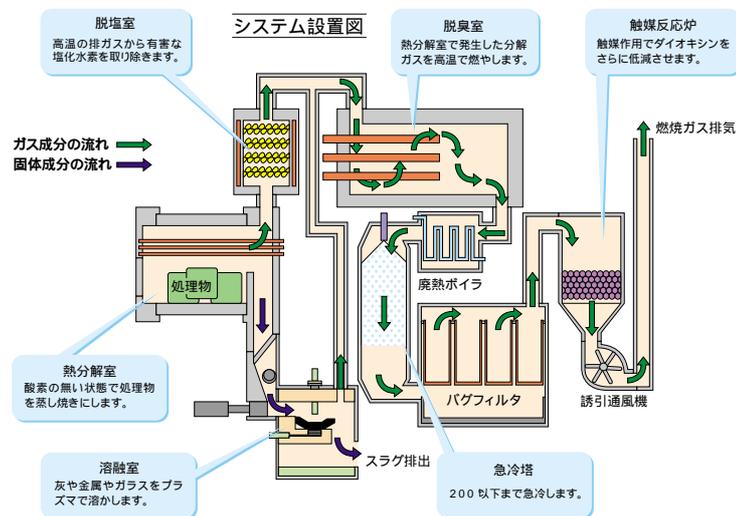
今回の展示では、名古屋第二赤十字病院に設置してフィールド検証を行っている100kg / 日級実証装置の紹介が加わったことから、システム内容や装置価格、競合機種との比較などの説明を多くのお客さまから求められ、確かな手応えを感じた。特に、最終工程でプラズマ溶融処理を行う当社装置は、確実な滅菌と大幅な減容が期待できることから、他社装置との差別化が図られ、病院関係者の関心を集めることになったと思われる。

今回の展示を通じて、病院関係者の医療廃棄物処理に対する切実な思いや、当社装置に対する期待の大きさを肌で感じ、説明対応した研究員全員、少しでもお客さまのお役に立てるような実用機としていくことを新たに誓い合った。



プラズマ溶融技術を導入した画期的な 医療廃棄物処理システムの概要と特長。

本装置は熱分解室、脱臭室、プラズマ溶融炉、排ガス処理系の各設備から構成され、すべてが電気制御方式をとっています。



処理による廃棄物の変化



仕様

項目	基本仕様
対象物	医療廃棄物
設置面積	約24-100m ²
処理量	100kg-1,000kg/日
処理温度	熱分解室: 500-600℃ 脱臭室: 1000-1100℃ 溶融炉: 1200-1600℃
DXN排出値	0.1ng-TEQ/Nm ³ 以下
減容比率	約1/250